

明日の川西を担う子どもたちを 学校・家庭・地域・行政の力を合わせて 健やかに育みましょう

～平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて～

昨年度より、「全国学力・学習状況調査」が全国的に実施されることになり、本年度は2回目の参加となります。本調査の目的は、

- ①全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況等を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- ②各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること
- ③各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てること

であり、国語と算数・数学という一部の教科でしたが、上記の目的にあるように、全国的な状況との関係において、本市の教育施策の成果と課題、学校における指導の実際について、評価・検証する機会の一つとしてとらえ、本市におきましても参加しました。その概要は、以下のとおりです。

平成20年度全国学力・学習状況調査実施概要（川西市）

1. 調査対象

- (1) 市内全小学校第6学年・特別支援学校小学部第6学年の児童
- (2) 市内全中学校第3学年・特別支援学校中学部第3学年の生徒

2. 調査内容

(1) 小学校第6学年

- ①実施教科等 「教科に関する調査（国語、算数）」、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」
- ②実施日 平成20年4月22日（火）
- ③実施時間 国語A（20分）、算数A（20分）、国語B（40分）、算数B（40分）、児童質問紙（40分）
- ④実施人数 1,435名

(2) 中学校第3学年

- ①実施教科等 「教科に関する調査（国語、数学）」、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」
- ②実施日 平成20年4月22日（火）
- ③実施時間 国語A（45分）、国語B（45分）、数学A（45分）、数学B（45分）、生徒質問紙（40分）
- ④実施人数 1,128名

※「教科に関する調査」出題範囲は、前学年（小学校第5学年・中学校第2学年）までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

- [国語A、算数・数学A]：身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
- [国語B、算数・数学B]：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

「では、川西の子どもたちの学力は、どうだったのか？」というご心配が、保護者のみなさまを含め市民のみなさまにはあるかと思われます。

川西の子どもたちは、全国（公立）平均と比べて同程度（全国平均正答率（下表）と比較した±5ポイント範囲内）の結果でした。

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
	65.4%	50.5%	72.2%	51.6%
中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
	73.6%	60.8%	63.1%	49.2%

○小学校国語A（知識）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

○小学校国語B（活用）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。



○小学校算数A（知識）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

○小学校算数B（活用）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。

○中学校国語A（知識）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

○中学校国語B（活用）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。

○中学校数学A（知識）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

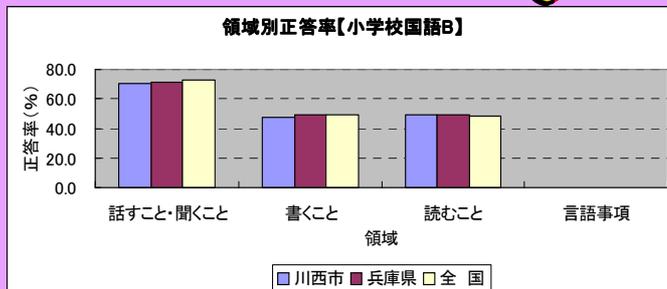
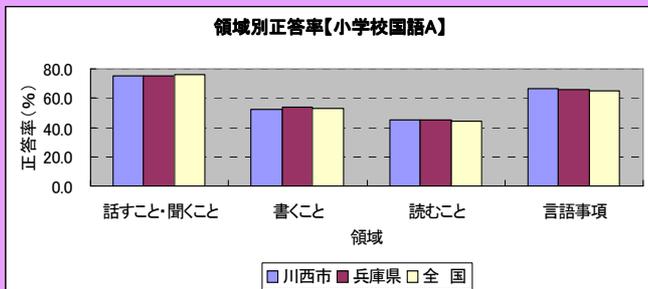
○中学校数学B（活用）について、全国平均正答率と同程度であり、今回出題した学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある。



市内全体の状況を表す平均正答率等、序列化につながるおそれのあるものについては、公表いたしません。それは、平均正答率をはじめとする数値の公表は、各校の序列化や過度な競争につながるおそれがあり、今後継続実施する予定である調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると判断したからです。（文部科学省 平成20年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領に因ります）ご理解をお願いいたします。

以下では、市内小学校第6学年児童及び市内中学校第3学年生徒の傾向として分析したものの一部をお知らせいたします。

小学校 国語



○課題等

話すこと・聞くこと

- ◆(B) 話し手の意図を考えながら、反応を示したり内容を深めたりして聞くことを更に身に付ける必要がある。

相手や状況に応じてインタビューを進めるためには、準備した内容を計画的に順序よく質問することに加えて、相手の回答や話の展開に合わせて質問内容を変更することの必要性を実感し、それらに対応できるようになることが大切です。

具体的には、話し手や聞き手を相互に体感できるようなインタビューの活動を積み重ねるとともに、両者の立場になって成果や課題を評価しあうことなどを経験することです。



書くこと

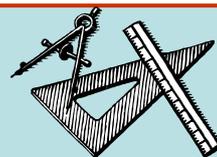
- ◆(A、B) 目的や課題に応じて、グラフから分かったことや考えたことを書くことに課題がある。
- ◆(B) 意見文における冒頭と結びとの関係をとらえることに課題がある。

目的に応じて資料から情報を正しく取り出した上で、さらにテーマや条件に合わせて書くことが必要です。

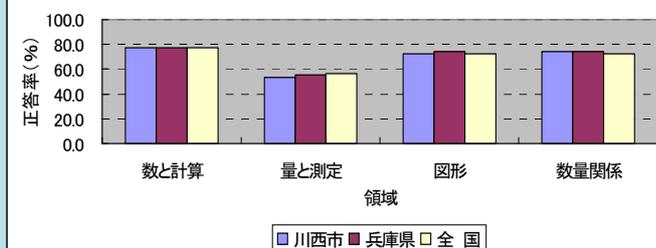
そのためには、自分の立場や主張を明確にした上で、その根拠として数値や事例などを正しく引用して書くことなどの言語活動を充実することが大切です。

このことは、中学校学習指導要領国語の第1学年「伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること」、第2・3学年の「自分の立場や伝えたい事実や事柄を明確にすること」へ発展するものです。

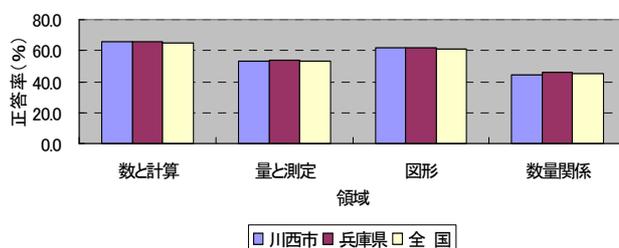
小学校 算数



領域別正答率【小学校算数A】



領域別正答率【小学校算数B】



○課題等

量と測定

◆(A) 面積についての感覚を身に付けることに課題がある。

図形

◆(A) 基本的な平面図形の定義や性質を基に、図形をとらえることに課題がある。

作業的・体験的な活動を通して、基本的な平面図形の性質を理解できるようにすることが大切です。ひし形については、紙にひし形をかいて切り抜き折り重ねたり、辺の長さをコンパスを用いて測定したりして、4つの辺の長さが等しい四角形であることを理解できるようにすることが大切です。

数量関係

◇(A) 円グラフを読むことは、相当数の児童ができている。

◆(B) 他者の考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

◆(B) グラフの特徴を基に表わされている内容を読み取り、違いを言葉や数を用いて記述することに課題がある。

グラフの特徴を基にして表されている内容を読み取り、説明できるようにすることが大切です。

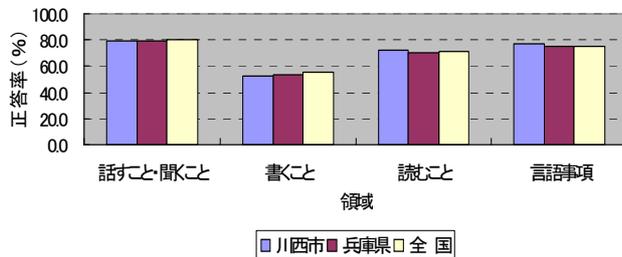
複数のグラフが示された場面で、それらと比較して相違点を説明するためには、説明する対象を明確にしてそれぞれのグラフについて述べる必要があります。



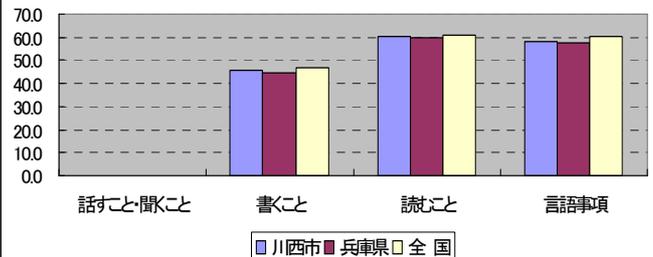
※ ◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点
()内の記号は、A=国語A・算数A B=国語B・算数B

中学校 国語

領域別正答率【中学校国語A】



領域別正答率【中学校国語B】



○課題等

書くこと

- ◆(A) 論理の展開に着目し、評価・批評することに課題がある。

書くことについては、書いた文章を第三者（学校の友達や家族）と互いに読み合い評価・批評するような場面が必要です。

その際、文章の構成や論理の展開の仕方、材料の活用の仕方などに注目し、根拠を示しながら評価・批評することが大切です。また、自分の表現に生かすという視点をもって、評価・批評することも大切です。

読むこと

- ◇(A) 文のまとまりをつかんで古文を読むこと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは相当数の生徒ができている。
- ◆(B) 表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直してまとめることに課題がある。

文学的な文章において、展開を整理したり登場人物の行動や会話を比較したりする場合には、付箋やカードを使ったり、図や表にまとめたりすることが有効です。

その際、図や表にまとめることの意味を考えたり、図や表の形式を考えて内容をまとめたりすることも大切です。



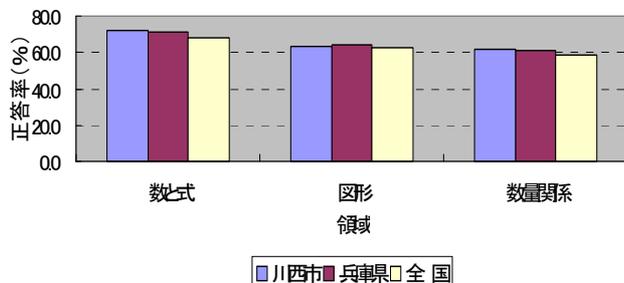
言語事項

- ◇(A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うこと、行書と楷書の違いを理解することは相当数の生徒ができている。

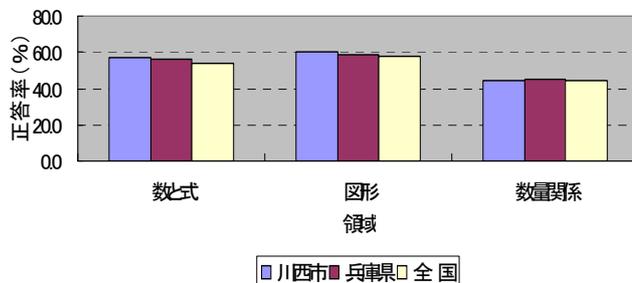
漢字を書くことについては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に習得することが必要です。漢字を読むことについては、部首に着目したり、同じ漢字を用いた他の語句と関連させたりしながら、文脈の中で意味を理解しながら読むことができるようにすることが大切です。

中学校 数学

領域別正答率【中学校数学A】



領域別正答率【中学校数学B】



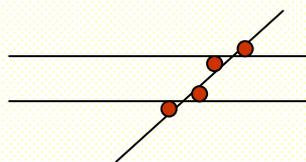
○課題等

図形

- ◇(A) 証明の中で、根拠として用いられる平行線の性質については相当数の生徒ができています。

図形の性質などを調べる際には、平行線や角の性質を根拠として用いていることを理解できるようにすることが大切です。

同位角、錯角の位置関係や平行な2直線をとらえることを通して、根拠として用いている平行線や角の性質を明らかにする場面が必要です。



数量関係

- ◆(B) 事象を理想化したり単純化したりしてとらえ、その特徴を数学的に解釈し、一次関数であることを判断することに課題がある。

日常的な事象において、比例・反比例、一次関数の意味や特徴を理解できるようにすることが大切です。

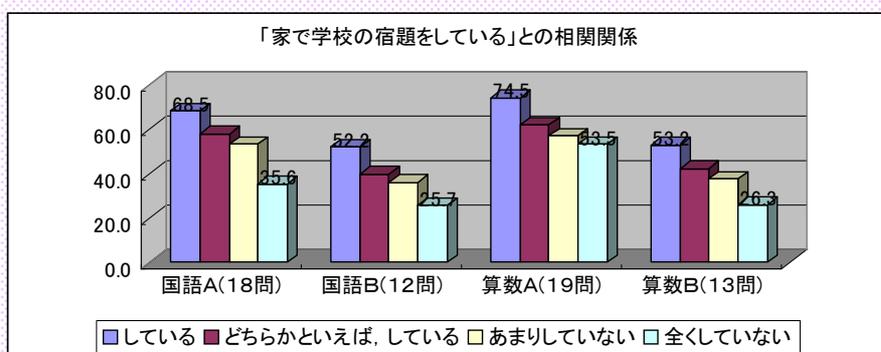
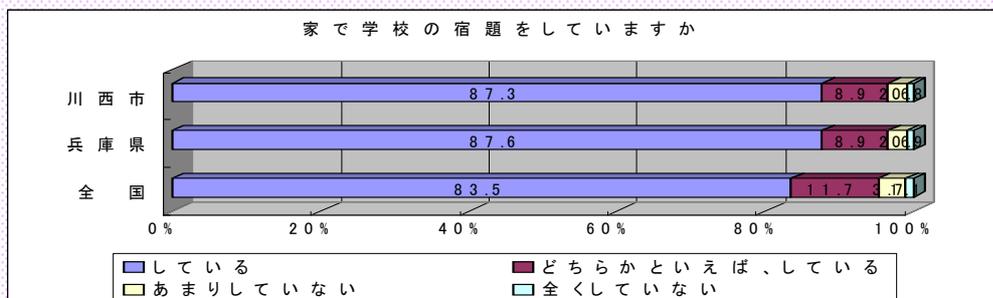
例えば、比例と一次関数の関係を的確にとらえるためには、それらに共通な性質「変化の割合は一定である」があることを調べるとともに、比例の性質「グラフは原点を通る直線である」や「 $X=0$ のとき、 $Y=0$ である」などについて調べる活動などが有効です。

多様な情報の中から、問題解決に必要なものを適切に選択できるようにすることが大切です。表とグラフなど多様な情報を含む問題場面から分かることを取り出し、問題解決に必要なことを見いだしたり整理したりすることを練習することです。

※ ◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点
()内の記号は、A=国語A・算数A B=国語B・算数B

大事にしましょう…その①

家に帰ってから、宿題、予習・復習すること。



- 1日当たりの学習時間が長い児童の方が、正答率が高い傾向が強く見られる。
 - 家で自分で計画を立てて勉強している児童、家で学校の宿題をする児童、家で学校の授業の予習・復習をしている児童の方が、正答率が高い傾向がみられる。
- ※この傾向は、中学校生徒も同様です。

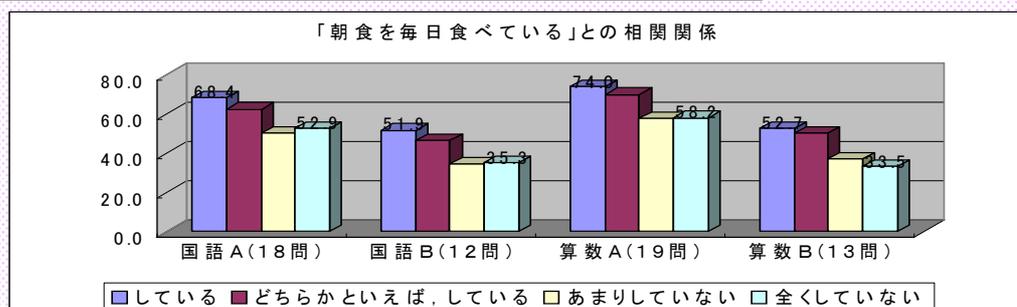
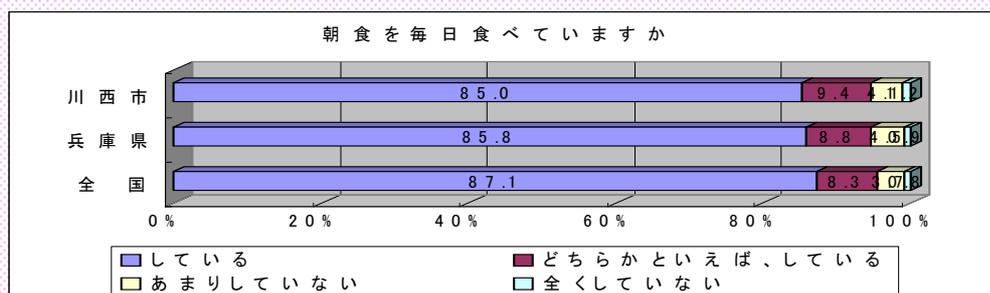
このほかにも、以下のような児童の方が、正答率が高い傾向が見られる

- 国語の授業の内容でよく分かると思う児童
- 国語の勉強が好きな児童、大切だと思う児童、役に立つと思う児童
- 国語の授業で、考えの理由がわかるように気をつけて書く児童、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読む児童
- 新しく習った漢字を実際の生活で使おうとする児童、目的に応じて資料を読み、考えを話したり書いたりする児童、発表のとき、話の組み立てを工夫する児童
- 算数の勉強が好きな児童、算数の授業の内容でよく分かると思う児童
- 算数の勉強が大切だと思う児童、役に立つと思う児童

- 算数の授業で新しい問題を解いてみたいと思う児童、算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える児童、算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童、公式やきまりのわけを理解しようとする児童
- 算数の授業で、問題を解くときにもっと簡単に解く方法がないか考える児童、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く児童

大事にしましょう・・・その②

朝ごはんを毎日食べたり、規則正しい生活をしたりすること。



- 朝食を毎日食べる児童、学校へ行く前に持ち物を確認する児童、毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。
 - 家の人と学校での出来事について話をしている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ※この傾向は、中学校生徒も同様です。

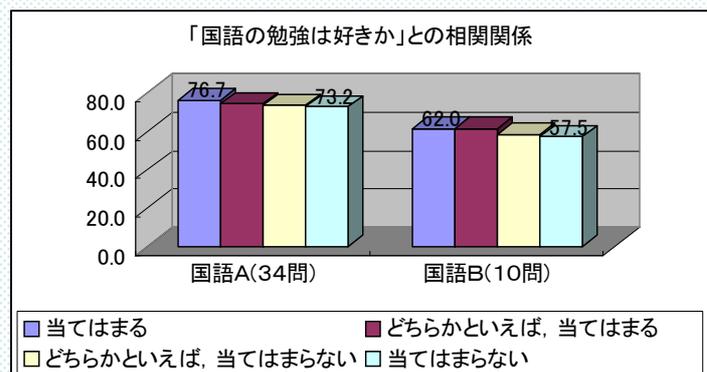
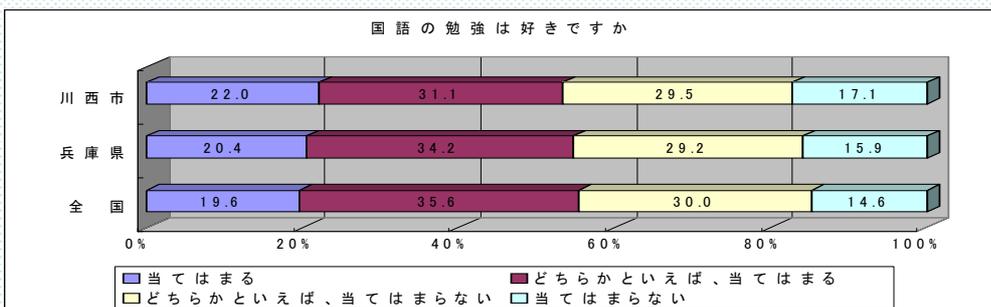
大事にしましょう・・・その③

家の人と学校での出来事について話をしたり、新聞やテレビのニュースなどに関心をもったりすること。

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある児童の方が、正答率が高い傾向が見られる
 - 学校のきまりを守っている児童、友だちとの約束を守っている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ※この傾向は、中学校生徒も同様です。

大事にしましょう・・・その④

国語や算数、勉強のことを好きになること。



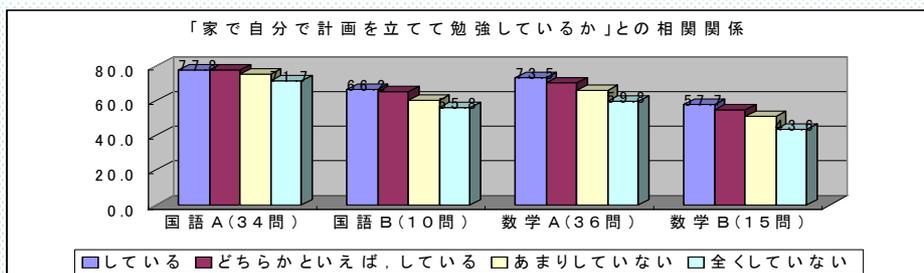
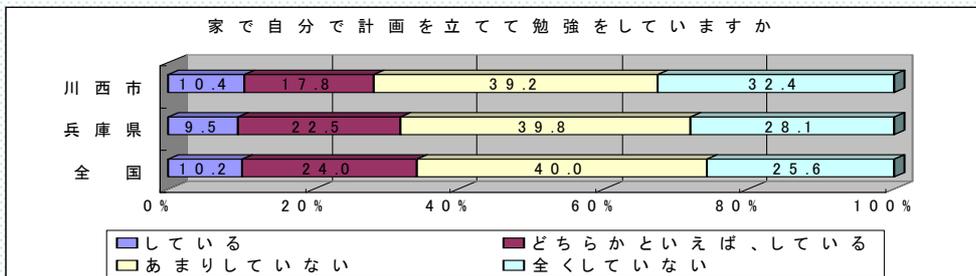
- 国語の授業の内容がよく分かると思う生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が強く見られる。
 - 国語の勉強が好きで、大切だと思う生徒、役に立つと思う生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。
- ※この傾向は、数学でも同様に見られる。
 ※この傾向は、小学校児童も同様です。

このほかにも、以下のような生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる

- 国語の授業で書くとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読む生徒
- 以下と回答している生徒
 - ・新しく習った漢字を実際の生活で使おうとする
 - ・国語の授業で、考えを話したり書いたりする
 - ・国語の授業で、発表のとき、話の組み立てを工夫する
 - ・国語の授業で、考えの理由が分かるように気をつけて書く
- 数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える生徒、
数学の授業で問題を解くときにもっと簡単に解く方法がないか考える生徒、
数学の授業で公式やきまりの根拠を理解しようとする生徒
- 数学ができるようになりたいと思う生徒、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒、
問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く生徒

大事にしましょう…その⑤

自分で計画を立てて、家庭学習をすること。



- 1日あたりの学習時間が長い生徒、家で学校の宿題をする生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。特に数学の正答率が高い傾向が見られる。
- 家で自分で計画を立てて勉強する生徒、家で学校の授業の予習・復習をしている生徒の正答率が高い傾向が見られる。

※この傾向は、小学校児童も同様です。

大事にしましょう・・・その⑥

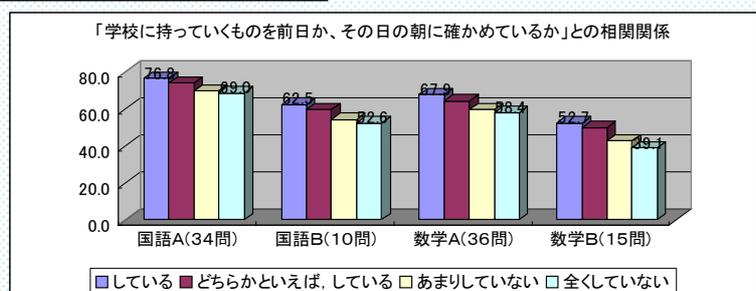
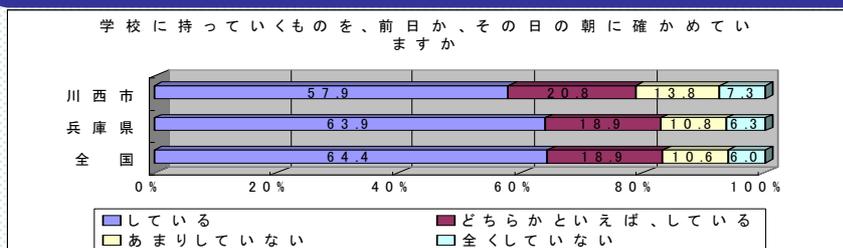
読書をすること。1日に10分から始めてみましょう。テレビやゲームは、ほどほどに・・・。

- 読書が好きな生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。特に国語の正答率が高い傾向が見られる。
- 家や図書館で、1日当たり10分以上読書する生徒の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。テレビやビデオ・DVDを見る時間が短い生徒、テレビゲームをする時間が短い生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

※この傾向は、小学校児童も同様です。

大事にしましょう・・・その⑦

事前に、学校に持っていく物の確認をすること。



- 朝食を毎日食べている生徒、学校に行く前に持ち物を確認している生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 家の人と学校での出来事について話をしている生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 新聞やテレビのニュースに関心がある生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

※この傾向は、小学校児童も同様です。

大事にしましょう・・・その⑧ 学校のきまりを守ること。

- ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある生徒、人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
 - 学校の規則を守っている生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- ※この傾向は、小学校児童も同様です。

子どもたちは、無限の可能性をもっています。それは、まるでダイヤモンドのようです。ダイヤモンドの原石は光沢も特徴もない結晶体ですが、研磨やカットリングなど多くの「ひと」がかかわり、いろいろな工程を経て、初めて芸術的な形とすばらしい輝きを持ち始めます。

私たち、おとなは、この研磨やカットリングの工程にあたる、有意義な時間や場を設けて、子どもたちを健やかに育てていかなければなりません。

昨年度より参加しています全国学力・学習状況調査は、この子どもたちに対して設定する時間や場のこれまでの取組がどうであったのかを見つめなおす、よい機会の一つであると捉えています。

今回、お示しました平成20年度全国学力・学習状況調査結果から、「全国平均の傾向と同様に、知識・技能を活用する力には課題があること」や「基本的な生活習慣や家庭学習の確立の如何と正答率には、相関関係があること」などが明らかになりました。

このように明らかになった課題や傾向について、よいところは伸ばし、思わしくないところは見直しを図り、よりよい方策を模索することが、今、私たちおとなに問われているのだと受け止めています。

子どもたちを健やかに育て、有意義な時間や場とは、さまざまな「ひと・もの・こと」の出会いです。そのためには、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの担う役割を果たすこととともに、それぞれが機能的に連携していくことが求められています。

昨年度より、川西市基礎学力向上検討委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が担う役割や連携について検討を重ねております。明日の川西を担う子どもたちを健やかに育ていけるよう、取り組んでまいります。ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

川西市教育長 益満 良一

平成20年10月発行

川西市教育委員会 教育振興部 学校教育室 TEL 072-740-1254